

エコアクション21

環境活動レポート



第48期

(2014年10月～2015年9月)

株式会社 カンサイ

発行日 2015年10月30日

目次

- ご挨拶・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
 - 1. 会社概要・沿革等・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
 - 2. 環境方針等・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4
 - 3. 推進体制並びに責任と権限
 - (1) 推進体制・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5
 - (2) 責任と権限・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5
 - 4. 環境負荷の実績と考察44期～48期
 - (1) 実績・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6
 - (2) 考察・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6
 - 5. 48期の環境活動計画と中期環境目標
 - (1) 48期の環境活動計画・・・・・・ 7
 - (2) 中期環境目標・・・・・・ 8
 - 6. 各部署48期の取組みと実績・評価・・・・・・ 9～22
 - 7. 49期の環境活動計画・・・・・・ 23
 - 8. 第三者意見・・・・・・ 24
 - 9. 環境関連法規・訴訟等の有無・・・・・・ 25
 - 10. 許認可情報等・・・・・・ 26～27
 - 11. 環境管理責任者による全体評価と見直しの結果・・・・ 28
 - 12. 編集後記・・・・・・ 28

対象事業所	本社 本社工場（ETF）	広島県広島市佐伯区五日市町大字石内460番地
	きなり村	広島県廿日市市津田字桧木尾840番地
	倉橋工場	広島県呉市倉橋町字田野尻山935番地
対象期間	2014年10月～2015年9月（第48期）	
認証番号	0004647	
認証登録日	2010年2月22日	

ご挨拶

原点

株式会社カンサイは、創業以来「人と人との調和 人と自然との調和を大切に」という考えのもと、廃棄物処理業・リサイクル業を追求してきました。

また、2013年4月、企業理念として、

全従業員の物心両面の幸せを追求するとともに、
併せて人類と自然との調和を大切にする

を制定しました。これは株式会社カンサイの企業活動の原点であり、判断や行動の拠り所になるものです。目先の利益にとらわれるのではなく、全社員が人として何が正しいのかを基準に考え行動し続けることにより、安心・安全なサービスを提供できると考えています。

創意工夫

株式会社カンサイは、「廃棄物処理」を起点に事業を拡大してきました。また自然環境の保全、資源の有効利用を推進する循環型社会基本法、個別物品に応じたリサイクル関連法が制定されました。そうした社会背景から、当社に廃棄物処理をご依頼頂くお客様のニーズも多様化しています。車両の更新、廃棄物処理施設・リサイクル施設の高度化は元より、ニーズにお応えするための技術革新、そして進化をもたらす人材育成に努め、社会からの期待に応え、さらなる成長をめざしてまいります。

調和

株式会社カンサイは、「人・社会・環境」との調和を図ることで、社会から存在意義を認めて頂ける企業であり続けたいと考えています。工場見学者の受入、情報開示、地域交流や協賛を長期に渡って取り組んでまいりました。

また、社会貢献活動の一環として、平成17年に循環型農園「きなり村」を開設いたしました。食に対する関心が高まっている中、当社のリサイクル製品である肥料を使用し、化学肥料や農薬を使用しない有機農法によって作物を栽培し、都市部へ循環させるという取り組みを行っています。これからも「人と自然との調和を大切に」し、社会との共生を図り、社会の持続的発展に貢献し続けたいと考えています。

株式会社 カンサイ

代表取締役 川本 義二

1. 会社概要・沿革等

会社概要

沿革

会 社 名	株式会社カンサイ
所 在 地	広島県広島市佐伯区五日市町大字石内460番地 TEL：(082) 941-1641 FAX：(082) 941-1715
代 表 者	代表取締役社長 川本 義二
環境管理責任者	代表取締役社長 川本 義二
エコアクション21推進責任者	業務部次長 北川貴伸
従業員数	42名
敷地面積	13,838㎡
処 理 量	第48期 7,146 t
売 上 高	第48期 615百万円
U R L	http://ekansai.co.jp
事業内容	一般廃棄物、産業廃棄物収集運搬処理 建設土木工事 総合リサイクル業 環境衛生プラントの運転管理、メンテナンス 環境計量証明事業 循環型農園施設運営（きなり村） 肥料製造業
関連会社	株式会社きなり エヌ・ケーイーエス有限会社 西日本環衛工業有限会社

1968年2月	産業廃棄物処理を目的に関西特殊産業株式会社を設立
1972年9月	産業廃棄物の収集運搬処理の許可を取得
1979年7月	ロータリーキルンを設置
1979年10月	汚泥肥料生産 肥料生産販売業届出
1982年4月	環境計量室を新設
1985年12月	倉橋工場を新設
1991年10月	回転炉床を設置
1998年10月	株式会社カンサイに社名を変更
2000年4月	ISO14001認証取得
2005年6月	きなり村をプレオープン
2010年2月	エコアクション21認証取得
2014年7月	広島県特別管理廃棄物収集運搬業許可の優良認定

48期賞歴

2015年6月 広島県安全運転管理協議会より 平成27年度優良事業所の表彰

2. 環境方針等

〈 社 是 〉

人と人との調和
人と自然との調和を大切に

〈 企 業 理 念 〉

全従業員の物心両面の幸せを追求するとともに
併せて人類と自然（全人類 大自然）との調和を大切にする

〈 環 境 方 針 〉

「人と自然との調和を大切に」

私たちは、人と自然との調和を大切にし、地域社会と利害関係者とのふれ合いを図り、技術と知恵と勇気を持って環境問題に積極的に取り組み、広く社会に貢献できる企業を目指します。

〈 行 動 指 針 〉

私たちは省エネ・省資源をはじめ、地球環境の保全と、資源の有効利用に弛まない努力と創意工夫を行い地域社会の一員として健全なる社会の発展に貢献いたします。

〈 基 本 方 針 〉

1. 資源の節約と再利用を促進し、環境と資源の保全に努めます。
 - ・CO₂排出量の低減や森林資源の保護、バイオマス利活用によるCO₂吸収、エネルギーの有効活用等に寄与します。
 - ・廃棄物の削減、資源化率の向上を推進いたします。
 - ・資源循環の技術開発を積極的に推進いたします。
2. 事業に関連する全ての法律を遵守します。
3. 環境マネジメントシステムの効率的な運用を行い、環境負荷の低減に努めます。
4. 情報はホームページ、電子掲示板、ポスター等により、全ての関係者に広く公開いたします。

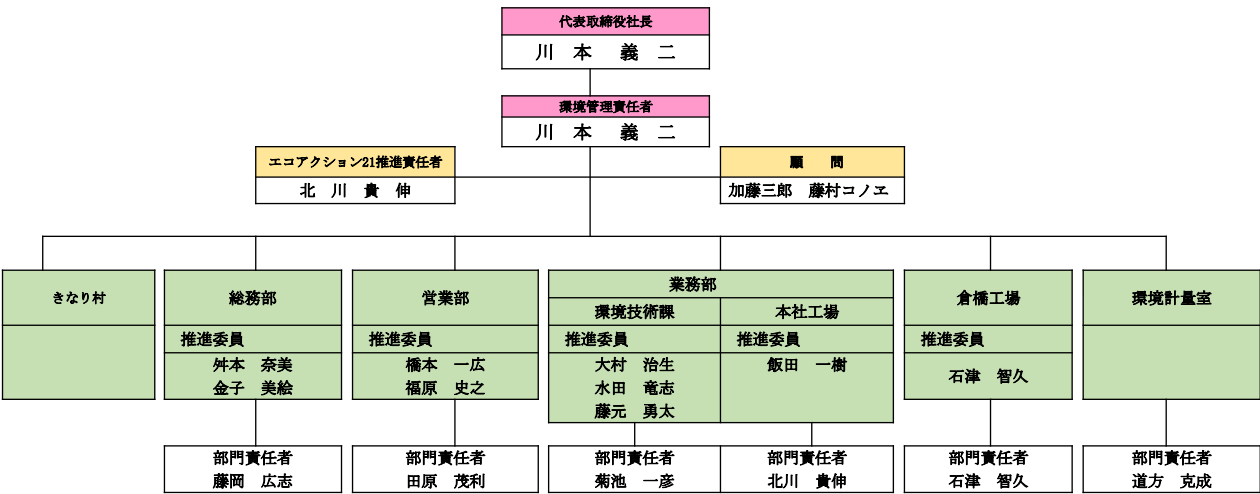


制定 1999年12月1日
改訂 2009年10月1日
改訂 2014年 3月1日

3. 推進体制並びに責任と権限

(1) 推進体制

当社はエコアクション21（EA21）推進委員会を中心とした体制で、環境対応に取り組んでいます。



(2) 責任と権限

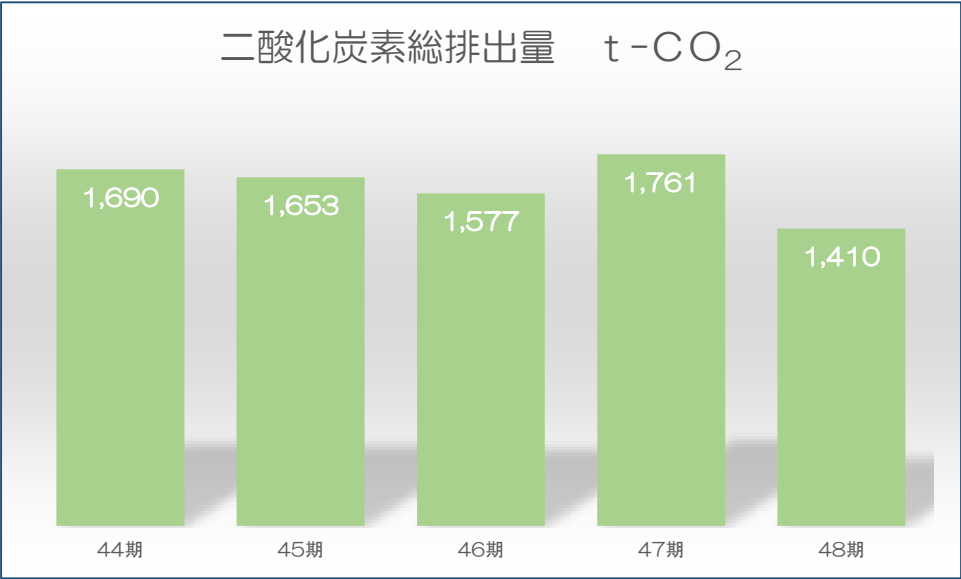
責任及び権限	
統括 (代表取締役社長)	① 環境方針の策定と全従業員への周知 ② 環境管理責任者の任命 ③ 運用に必要な人材、設備、費用、時間の準備 ④ 全体の取組み状況の評価、見直し
環境管理責任者	① 環境活動の取組み結果を代表者へ報告 ② 環境力道場の開催
エコアクション21 推進責任者	① エコアクション21事務局の総括 ② 一般教育の計画、実施 ③ 環境力道場の運営
エコアクション21 事務局	① 環境データの集計、取りまとめ ② 環境関連文書及び記録の管理 ③ 外部からの環境に関する苦情、要望の受付及び対応
推進委員	① 各部門における環境活動の管理 ② 環境活動実績の把握と事務局への報告
部門責任者	① 自部門の環境活動の責任者 ② 実務教育・訓練（専門教育）の計画、実施
全従業員	① 環境方針の理解と環境への取組みの重要性を自覚 ② 決められたことを守り、自主的・積極的に環境活動へ参加

4. 環境負荷の実績と考察 44期～48期（2011年～2015年）

（1）実績

二酸化炭素等 総排出量		単位	44期	45期	46期	47期	48期	排出係数
	電力	kWh	609,175	899,599	933,922	1,022,627	897,125	* 0.738
		前年対比%	24%↑	48%↑	4%↑	9%↑	12%↓	
	灯油	ℓ	38	622	2,863	745	455	0.0679
		前年対比%	30%↓	1537%↑	360%↑	74%↓	39%↓	
	A重油	ℓ	406,000	348,000	288,000	221,066	116,088	0.0693
		前年対比%	13%↓	14%↓	17%↓	23%↓	47%↓	
	低硫黄重油	ℓ		9,706	10,230	1,375	0	0.0513
		前年対比%			5%↑	87%↓		
	LPG	kg	304	368	477	529	492	0.0598
前年対比%		8%↓	21%↑	30%↑	11%↑	7%↓		
ガソリン	ℓ	19,179	17,148	16,660	17,069	16,495	0.0671	
	前年対比%	2%↑	11%↓	3%↓	2%↑	3%↓		
軽油	ℓ	119,634	117,026	142,629	137,595	149,594	0.0687	
	前年対比%	2%↑	2%↓	22%↑	4%↓	9%↑		
合計		t-CO ₂	1,690	1,653	1,577	1,761	1,410	
		前年対比%	6%↓	2%↓	4.6%↓	12%↑	20%↓	
	総排水量 (事務所・倉橋工場)	m ³	616	651	600	1,381	1,419	
		前年対比%	3%↑	6%↑	7.8%↓	130%↑	2%↑	
	廃棄物排出量	t	3,643	4,797	4,636	4,323	4,785	
		前年対比%	12%↑	32%↑	4%↓	7%↓	11%↑	

- ※二酸化炭素排出量は、エネルギー種類ごとに消費量×二酸化炭素排出係数×単位発熱量を掛け合わせた数字です。この表では消費量と二酸化炭素排出係数を掲載しています。
- ※47期に電力の排出係数見直しを行いました。（46期までは0.3780kg-CO₂/kWh）
- ※環境省2014年公表電力事業社別CO₂排出係数は、中国電力0.719kg-CO₂/kWhですが、前年との比較と経過観察のため、一定期間環境省2013年公表電気事業者別CO₂排出係数（中国電力0.738kg-CO₂/kWh）を使用しています。
- ※47期11月より、本社工場の重機に使用していた低硫黄重油の使用を軽油に切り替え環境に配慮しました。



（2）考察

- 電力につきましては、本社工場の焼却炉の稼働率が低下したこと、倉橋工場の処理工程の見直しの為、47期に新醗酵設備を導入しチャレンジしたのですが、思わしい成果が得られなかった為に、従来型の処理方法に戻しました。この二工場の設備により電力使用量が抑えられました。
- A重油につきましては、焼却炉の稼働率が低下したので使用量も自ずと減少しました。
- この二点が大きな要因で47期よりCO₂総排出量が20%も減少しました。
- 49期には本社事務所を統合し、ワンフロア化によりムダな電力使用を抑え更なる節電に取り組む予定です。

5. 48期の環境活動計画と中期環境目標

(1) 48期の環境活動計画

	目標	活動内容	実施時期	該当部門
1. 環境	(1) 回転炉床・ロータリーキルンの重油使用量の削減	管理体制の強化、随時改善する	通年	ETF
	(2) 業務車両のガソリン・軽油使用量の削減	ドライブレコーダーの運用 および管理体制の強化	通年	業務部
	(3) 営業車両のガソリン使用量の削減	エコ運転の教育・徹底	通年	営業部
	(4) 重機の軽油使用量の削減	点検マニュアルの改善 および管理体制の強化	通年	倉橋工場
	(5) 事務所電力使用量の削減	こまめな節電	通年	環境計量室
	(6) 作物によるCO ₂ 吸収量の増加	環境に適した作物栽培の検討・実行	通年	きなり村
	(7) 場内全域の臭気対策	有用微生物を用いた実証実験	通年	ETF
	(8) 施設の改善	調査・実行・検証および確認	通年	ETF・倉橋工場
	(9) 在庫管理の強化	スケジュールを作成し実行・検証・改善 する	通年	ETF・倉橋工場
	(10) 緊急事態（自然災害）への対応	重要度を明確にして実施する（中期計画）	通年	ETF・倉橋工場
	(11) 各環境測定の実施	ダイオキシン測定ほか	通年	ETF
	(12) 燃え殻・汚泥・・肥料・排水維持管理	毎月サンプリング・分析 および関係部署への伝達	通年	環境計量室
	(13) 環境活動レポートの作成	12月初旬に2014年度版を発行	10～12月	第2期環境力道場 メンバー
2. コミュニケーション	(1) ステークホルダーからの要望への対応	お客様の要望・意見・提案を回覧する	通年	全部署
	(2) 情報の共有化	新システム導入によるスケジュール管理	通年	営業部
	(3) 社員とのつながり	毎月誕生月の人をお祝する	通年	総務部
	(4) 家族とのつながり	社内報の内容を充実させる	年4回	営業部
		コミュニケーションの場を企画・実施	年1回	総務部
	(5) ステークホルダーとのつながりの拡充	地域清掃活動への参加	通年	営業部
	(6) 自社活動の広報	イベントの企画		営業部・きなり村
	(7) 見学者の受け入れ拡充	部署間での事前協議	通年	営業部
3. 教育	(8) 積極的な情報公開	ホームページの充実	通年	総務部
	(1) 自社活動内容の理解度向上	年2回全体教育の実施	11・5月	EA21事務局
	(2) 資格取得へのチャレンジ	リストアップと計画取得	通年	全部署
4. 安全衛生	(3) 知識の向上	随時各講習会、講義の参加	通年	全部署
	(1) 1年間無事故無災害	指差し確認の徹底と啓発	通年	ETF・倉橋工場・ 業務部
	(2) 交通事故の防止	事件事例の再検証	通年	業務部
	(3) 飲酒運転禁止	アルコールチェッカーの運用 （基準値0mg）	通年	業務部
	(4) 5S活動の推進 （整理・整頓・清掃・清潔・躰）	毎週金曜日の清掃活動	通年	全部署
	(5) 安全衛生協議会の設置	設置・運営・労働災害防止策・熱中症対策	通年	EA21事務局

5. 48期の環境活動計画と中期環境目標

(2) 中期環境目標

	取組み事項	49期 (2015年10月～ 2016年9月)	50期 (2016年10月～ 2017年9月)	51期 (2017年10月～ 2018年9月)	52期 (2018年10月～ 2019年9月)
全体	CO ₂ 総排出量の削減 (47期2013年10月～2014年9月)	20%削減	21%削減	22%削減	23%削減
	CO ₂ 総排出量 (基準年 1,761t-CO ₂)	1,409	1,391	1,374	1,356
本社工場	回転炉床焼却炉A重油使用CO ₂ 排出量の削減 (t-CO ₂)	180.3	176.7	174.9	173.2
	回転炉床焼却炉A重油使用量の削減 (ℓ)	66,540	65,212	64,548	63,920
	ロータリーキルン炉A重油使用CO ₂ 排出量の削減 (t-CO ₂)	120.0	118.8	117.6	116.4
	ロータリーキルン炉A重油使用量の削減 (ℓ)	44,286	43,844	43,401	42,958
	回転炉床焼却炉電力使用CO ₂ の削減 (t-CO ₂)	233.8	231.5	229.2	226.9
	回転炉床焼却炉電力使用量の削減 (kWh)	316,802	313,686	310,569	307,453
業務	業務車両CO ₂ 排出量の削減 (t-CO ₂)	191.0	189.1	187.2	185.3
営業	営業車両CO ₂ 排出量の削減 (t-CO ₂)	229.5	224.9	222.7	220.5
事務所	電力使用CO ₂ 排出量の削減 (t-CO ₂)	43.3	42.9	42.5	42.1
	電力使用量の削減 (kWh)	58,672	58,130	57,588	57,046
倉橋工場	軽油使用CO ₂ 排出量の削減 (t-CO ₂)	74.8	72.6	71.1	70.4
	軽油使用量の削減 (ℓ)	28,517	27,662	27,108	26,837
	電力使用CO ₂ 排出量の削減 (t-CO ₂)	182.6	180.8	179.0	177.2
	電力使用量の削減 (kWh)	247,464	244,989	242,539	240,114
きなり村	電力・軽油他CO ₂ 排出量の削減 (t-CO ₂)	114.3	112.0	109.8	107.6
その他	電力・軽油他CO ₂ 排出量の削減 (t-CO ₂)	39.3	41.8	40.0	36.4

※基準年を43期から47期に変更して、より実働にあった目標設定にしました。

※事務所電力使用量の目標については、48期より過去5年の平均を基に設定しています。

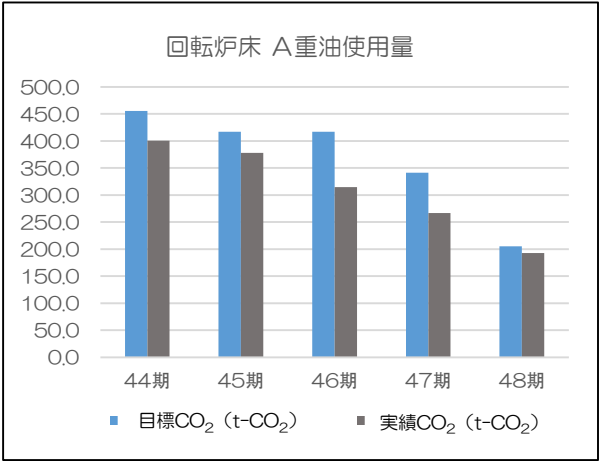
※48期以降の電力CO₂削減量目標値は、排出係数0.738kg-co₂を使用しています。

※前期目標に対する実績が未達成の場合、その実績値を元に見直しを検討します。

6. 各部署48期の取組みと実績・評価

5（1）の計画（P.7）に沿って取組みと実績を報告します。

（1）本社工場の取組み 1）CO₂の削減など



【取組み】

- 毎日の使用量を記録して、月次報告会にて進捗状況の報告と見直しを行いました。
- 毎月、個人別目標達成表を掲示して、焼却炉運転管理者の意識向上に努めました。
- 廃油系廃棄物を助燃材として使用して、焼却炉の温度管理をより徹底しました。

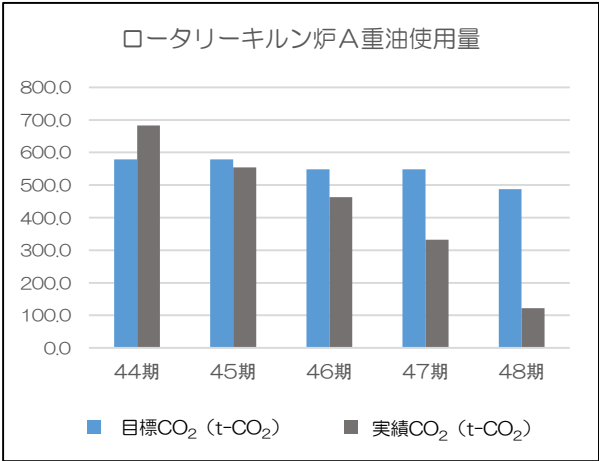
【実績・評価】

- 目標204.8t-co₂に対して実績192.9t-co₂と目標達成出来ました。
- 年々焼却炉運転管理者の意識が向上したことにより目標を達成できました。

【今後】

- 更なる効率的処理の追求とより一層の温度管理の強化を追及して、49期は前期実績値より4.6%削減して184t-co₂にチャレンジします。

CO ₂ 排出量 回転炉床式焼却炉 A重油	単位	目標	実績	CO ₂ 削減率	評価
	t-CO ₂	204.8	192.9	8.2%削減	○
	ℓ	75,600	71,179		



【取組み】

- 毎日の使用量を記録して、月次報告会にて進捗状況の報告と見直しを行いました。
- 一定時間ごとに一度巡回して、ロスの無いように管理体制の強化と随時見直しを行いました。

【実績・評価】

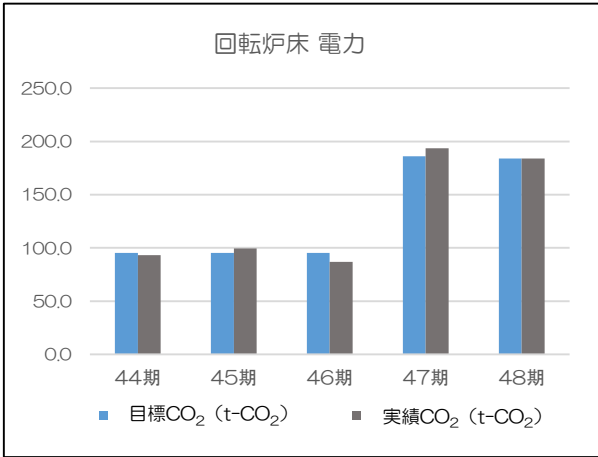
- 目標487.2t-co₂に対して実績121.7t-co₂と目標達成できました。
- 稼働が47期より大幅に少なかったことにより、CO₂の大幅削減となりました。
- 毎時あたりの処理量を追求した結果、1tあたりの使用量は47期より、12.4ℓ削減できました。

【今後】

- 稼働率に左右される面もありますが、48期の取組みを継続的に実施しまして、1%減の120t-co₂にチャレンジします。

CO ₂ 排出量 ロータリーキルン A重油	単位	目標	実績	CO ₂ 削減率	評価
	t-CO ₂	487.2	121.7	75%削減	○
	ℓ	179,792	44,909		

6. 各部署48期の取組みと実績・評価

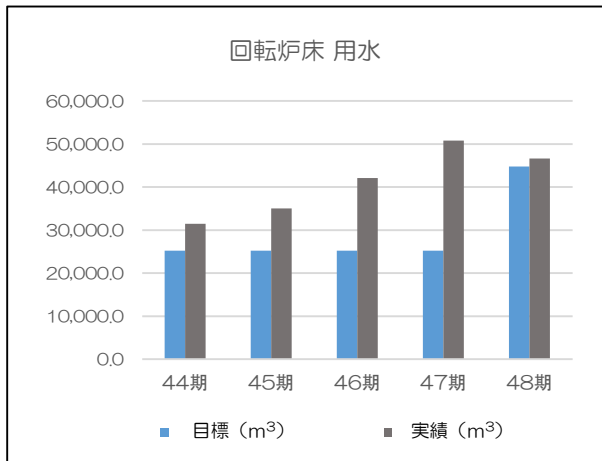


- 【取組み】
- ・昨年と同様に毎月の使用量を集計し、随時見直しを実施しました。
 - ・省エネ設備への更新や機器の運転状況の見直しを実施しました。

- 【実績・評価】
- ・目標183.9t-co₂に対して実績184.1t-co₂と目標達成には至りませんでした。
 - ・必要最小限の設備稼働を心掛けたのですが、省エネ設備への更新が8月にずれ込んだので、結果には結びつきませんでした。

- 【今後】
- ・48期9月に、新たに導入した集塵機の稼働により、電力使用量は増加する事が見込まれます。しかし、可能な限りの効率運転に努めCO₂削減に努めます。

CO ₂ 排出量 回転炉床 電力	単位	目標	実績	CO ₂ 削減率	評価
	t-CO ₂	183.9	184.1	0.1%増加	×
	kWh	249,200	249,417		



- 【取組み】
- ・排ガス洗浄水の水質を、毎時間管理して必要最小限の使用に努めました。

- 【実績・評価】
- ・目標44,800m³に対して実績46,605m³と目標の達成には至りませんでした。
 - ・47期に引き続き排ガス中に含まれる環境汚染物質を除去するため、用水にて洗浄除去をすることを最優先に考え取組んだ結果、用水使用量が増加しました。

- 【今後】
- ・新たに導入した集塵機により、排ガスを洗浄して排ガス処理していたスクラバー方式から、バグフィルターによる排ガス処理方式に変わり高度処理が可能になる為、用水使用量の減少が見込まれます。そのため、48期実績より54%減の21,438m³に設定し取組みます。

回転炉床 用水	単位	目標	実績	削減率	評価
	m³	44,800	46,605	4%増加	×

メッセージ

48期も前期に引き続き、回転炉床・ロータリーキルン炉のA重油使用量は削減する事ができ、CO₂排出量も抑えることができました。しかし、回転炉床の電力使用量は、今期も削減できていません。

今後、本社工場が地域の方々を含めたステークホルダーの皆様に貢献できる施設になるためには、CO₂排出量の削減による環境負荷の軽減は重要な取組みです。

「是非カンサイの施設を見学してみたい」と皆様に感じていただける様、49期は他の項目のCO₂も削減するため、具体的な対策を検討し、着実に実行していきたいと考えております。



本社工場 飯田課長

6. 各部署48期の取組みと実績・評価

(1) 本社工場の取組み

2) 環境コミュニケーションなど

【取組み】

- ・設備の改善では、新たな集塵機を導入し、焼却炉から発生する臭気対策を講じました。
- ・在庫管理の強化では、スケジュールを立て過剰在庫分を処理をしました。
- ・一年間無事故無災害では、日々の業務日誌で些細なヒヤリハットを記入し、朝礼にて注意喚起を促しました。
- ・緊急事態の対応では、定期的に消火栓を使用しての火災訓練を今期も継続し緊急時に備えました。
- ・環境測定の実施では、48期もダイオキシン測定をはじめ各測定を実施しました。
- ・5S活動の推進では、毎日始業前に10分間の清掃を継続して、場内美化に努めました。

【実績と評価】

- ・有用微生物を用いた臭気対策は、在庫管理に多くの時間を割いて取組んだため、実施に至りませんでした。
- ・一年間無事故無災害は継続できました。また、夏の暑さによる熱中症の対策として、通年同じ作業服にて作業をしていましたが、夏用の作業着を導入し熱中症対策をしました。
- ・腐食の激しい容器を優先に処理をして、漏洩による土壤汚染の防止をしました。

【今後】

5S活動・各環境測定・無事故無災害などは継続し、今後も取組んでいきます。

49期は、廃棄物の飛散防止と有機汚泥から発生する臭気対策を最重点課題として、取組みをしていきます。

新設した集塵機を含めた焼却炉の管理を通じて、技術の向上を図り、施設の安定運営を図っていきます。



回転炉床式焼却炉



本社工場



火災訓練の様子

メッセージ

48期は、回転炉床式焼却炉の集塵設備を見直し劇的な変化がありましたが、廃棄物の飛散防止や臭気対策が遅れている現状があります。この二点は、産業廃棄物業を営むうえで最低条件ですので、49期に力を入れて取組んでいきたいと思っています。

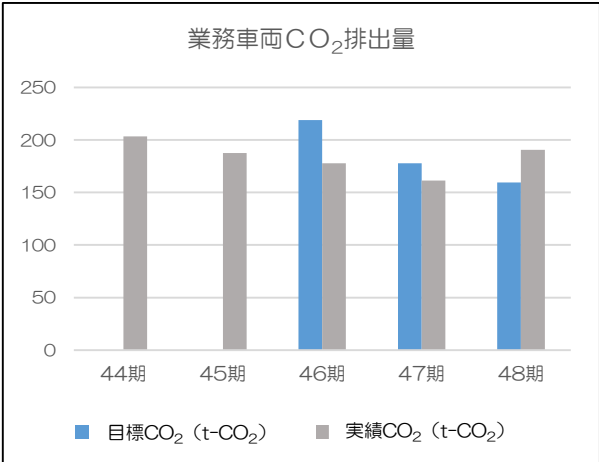
また、集中豪雨や大型台風による、自然災害で廃棄物の漏洩事故を発生させないように、廃棄物の管理をこれまで以上厳密にしていきたいと思っています。



本社工場 北川次長

6. 各部署48期の取組みと実績・評価

(2) 業務部の取組み 1) CO₂の削減など



* 44期・45期につきましては、車両燃費管理を見直しの
ために具体的な目標数値を掲げてはいませんでした。



- 【取組み】
- ・毎月の軽油、ガソリンの使用量を集計し使用量を把握しました。
 - ・アイドリングストップも継続して取組みました。

- 【実績と評価】
- ・目標160t-co₂に対して、191t-co₂と大幅に増加し目標達成できませんでした。
 - ・48期は例年より2 t 車での収集が増加し、走行距離が伸びた為、軽油の使用量が増加したのが大きな要因です。また、4 t 車、ガソリン車両は、熱中症対策として、故障していたエアコンを修理して使用を推進した為に、使用量も増加して燃費も伸びませんでした。

- 【今後】
- ・毎月の使用量と燃料費を集計し、いろいろな角度からアプローチして意識の向上を図り、随時見直しを行い無駄のない配車により、CO₂排出量の削減を目指します。
 - ・使用量が仮に増加したとしても、アイドリングストップや車両のメンテナンス（オイル交換やエアコンフィルターの清掃等）を定期的に行い、車両の維持管理、燃費向上を目指します。

CO ₂ 排出量 業務車両燃費		単位	目標	実績	削減率	評価
	年間総排出量	t -CO ₂	160	191	19.4%増加	×
	10 t 車両	km/ℓ	2.9	3.0	3.4%削減	○
	4 t 車両	km/ℓ	6.2	5.9	4.8%増加	×
	2 t 車両	km/ℓ	8.0	6.9	13.8%増加	×
	ガソリン車両	km/ℓ	19.1	17.5	8.4%増加	×

メッセージ

全体的に燃費の向上、CO₂排出量削減の意識の低下が見受けられますので、ドライブレコーダー等を活用し、エコ運転を推進していきたいと思ひます。

49期は引き続き各自の燃費削減への意識改革及び車両の更なるメンテナンス、特にエンジンオイルの定期交換、タイヤ空気圧チェックの基本管理に重点を置いて取組みます。



業務部 水田主任

6. 各部署48期の取組みと実績・評価

(2) 業務部の取組み

2) 環境コミュニケーションなど

【取組み】

- ・一年間無事故無災害では、毎日朝礼にて全員での指差し確認により、危険予知活動を行いました。
- ・交通事故防止では、ドライブレコーダーを活用して、過去の事故事例の再検証を行いました。
- ・飲酒運転禁止では、毎日のアルコールチェックを行いました。
- ・週に1回、管理職にて全車両のチェックを実施しました。

【実績・評価】

- ・車両の荷台に昇降するためのステップが無かったために、転落する労災が発生してしまい、継続していた無災害が途切れてしまいました。事故発生後、直ちにステップを取付ける措置を講じました。
- ・人身事故は無いものの、ひとつひとつの作業での指差し確認が徹底されていないため、軽微な物損事故が6件発生しました。
- ・飲酒運転禁止の意識が根付き、48期も検出者0人でした。
- ・5S活動の推進では、特に車両に対する5Sの意識が、少しずつではありますが、高まっていると感じます。

【今後】

- ・労災はもちろんのこと、軽微な事故を繰り返さないように、全員で意識を共有できるように朝礼の充実を図っていきます。
- ・49期は、業務車両のメンテナンス管理に重点を置き、特に強力吸引車や洗浄車等の特殊車両に関して知識を向上させ、自分たちの最大の仕事道具である業務車両を、より大切にしていきます。
- ・ドライブレコーダーを全車両に導入し、更なるエコ運転、安全運転に努めていきます。



朝礼時の危険予知活動の様子



新大型強力吸引車

メッセージ

今までは、車両そのものに対する愛着と知識が欠けており、正しいメンテナンス管理ができていなかったのが現状です。

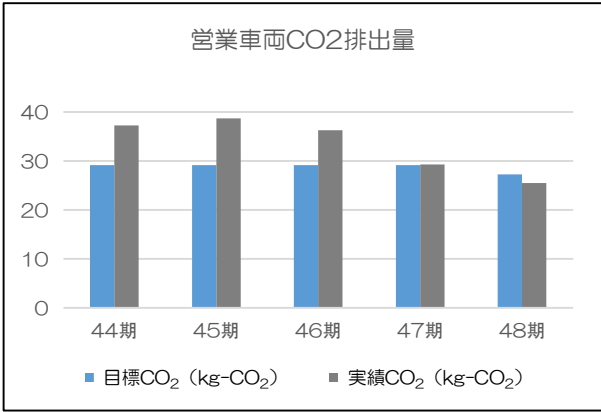
49期は、基礎から学び車両の維持管理に結びつけられるようにします。また、自分が行動することにより、全員の意識を高められるようにしていきたいと思います。



業務部 藤元主任

6. 各部署48期の取組みと実績・評価

(3) 営業部の取組み
1) CO₂の削減など



【取組み】
・エコドライブ10の取組みを実施しました。

【実績・評価】
・47期よりCO₂排出量を13%削減、目標値に対しては6.6%削減致しました。
・営業車両が1台少なくなった結果、排出量が減少しました。
・営業車両での産業廃棄物収集や製品配送も行っている為、重量物を運搬することにより車両に負担がかかり燃費は向上しませんでした。

【今後】
・一人一人が燃費向上及び常に車両に異常がないかどうか意識をもち、無駄のない効率の良い運転・営業活動を目指します。

CO ₂ 排出量 営業車両燃費		単位	目標	実績	削減率	評価
	CO ₂ 排出量	kg-CO ₂	27.3	25.5	6.6%削減	○
	車両燃費	km/ℓ	16.5	15.4	6.7%増加	×

メッセージ

49期は今期の反省を踏まえ、産業廃棄物収集時には極力重量物の運搬を避ける等、車両負担の少ない運転を行い、引き続きエコドライブ10に取組み燃費向上を意識します。日々の車両メンテナンスを通して異常を発見しやすくし、愛車精神のもと人と車にやさしい運転を行います。

営業部 福原主任

(3) 営業部の取組み
2) 環境コミュニケーションなど

【取組み】
・情報の共有化では、新システムで多くの情報を各部署に伝えるようにしました。
・家族とのつながりでは、48期も社内報を年4回発行し、各家庭に郵送しました。
・地域清掃活動については、月に一度、会社周辺道路の清掃を実施しました。

【実績・評価】
・情報の共有化では、新システム導入により配車状況、業務内容など他部署との共有が進みました。
・自社活動の広報を目的としたイベントの企画では、顧客とのタイアップを検討し、総務部と共同で家族会を実施しました。
・清掃活動では、早朝に清掃していたので地域の方との接触が少なく、積極的にカンサイをPRすることができませんでした。

【今後】
・社内報については、情報発信だけではなく、読んで頂いた方にもっと楽しんでもらえるように、内容を充実させていきたいと思っています。



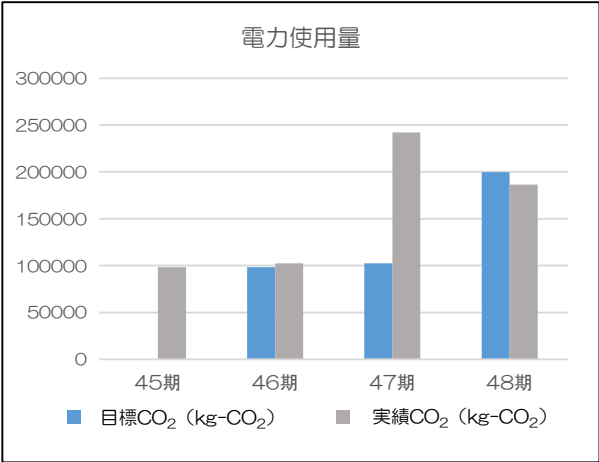
メッセージ

新しいシステムの導入や事務所フロアの統合により、部署間のコミュニケーションがとり易い体制になったと思います。
49期は、それらを活かせるような取組みを創意工夫し、実践していきたいと思っています。

営業部 橋本課長

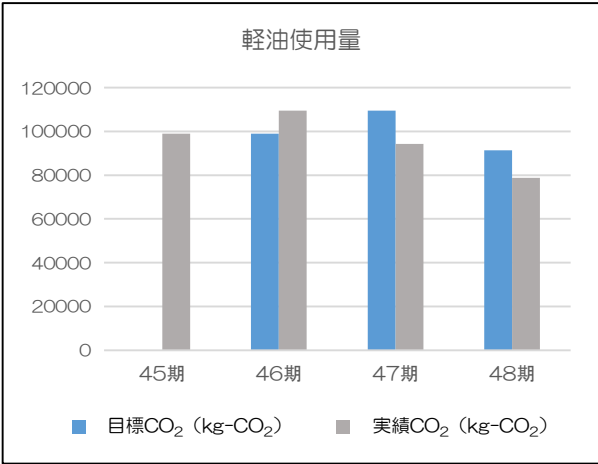
6. 各部署48期の取組みと実績・評価

(4) 倉橋工場の取組み
1) CO₂の削減など



- 【取組み】
- 必要最小限の機器の使用に努めました。
- 【実績・評価】
- 199,827kg-co₂に対して186,355kg-co₂と目標を達成できました。
 - 一次発酵槽において、ブロワーと併用する形で稼働していた高圧通気システムが思うような成果が得られなかったためブロワーに一本化した結果、目標値達成となりました。
- 【今後】
- 来年度以降、新たに導入される製品製造ラインによって、電力使用量の増加が予想されますが、費用対効果を考慮した設備投資を進めると共に、設備の効率的な管理運営に努めます。

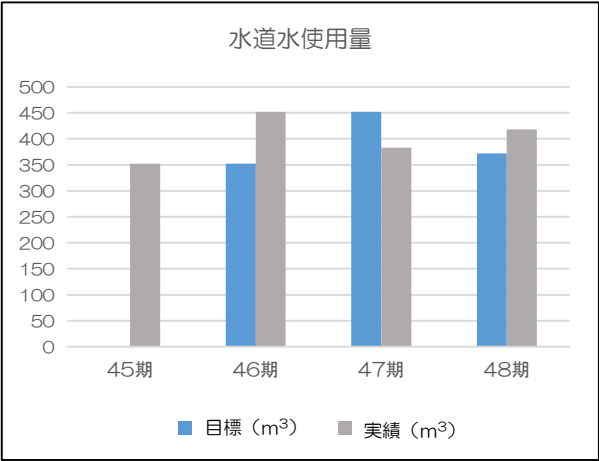
CO ₂ 排出量 電力	単位	目標	実績	CO ₂ 削減率	評価
	kg-CO ₂	199,827	186,355	6.7%削減	○
	kWh	270,768	252,514		



- 【取組み】
- 47期に引き続き、作業内容に応じた重機の選択や作業工程の組立てを工夫しました。
- 【実績・評価】
- 91,401kg-co₂に対して、78,777kg-co₂と目標を達成できました。
 - 必要以上の作業をするのではなく、効率と効果を検証しながら作業をして随時見直しをした結果、軽油使用量を削減することができました。
- 【今後】
- 今後も継続して状況に応じた重機の使用を進め、尚且つ処理量あたりの軽油使用量の削減にも努めていきます。

CO ₂ 排出量 軽油	単位	目標	実績	CO ₂ 削減率	評価
	kg-CO ₂	91,401	78,777	13.8%削減	○
	ℓ	34,828	30,018		

6. 各部署48期の取組みと実績・評価



【取組み】
・洗車時に、流し洗いからバケツへの溜め洗いに変更しました。

【実績・評価】
・目標372m³に対して、418m³と増加しました。
・以前は、5Sの意識が低く重機の洗車などを十分に実施しておらず、結果的に使用量が抑えられていました。しかし、48期は5Sの浸透が進み、重機の洗車を定期的の実施した結果、増加しました。

【今後】
・車両、重機の適切な維持管理には、洗車も欠かせません。工場敷地内の湧き水の活用の可能性を調査、検討するなどして、現状の管理体制を維持しつつ、水道水の節水に取り組んでいきます。

水道水	単位	目標	実績	削減率	評価
	m³	372	418	12.4%増加	×



メッセージ

倉橋工場では、45期から毎年大規模な修繕工事をしてきたこともあり、特に電気使用量はこれまで大きく変化してきました。

今後も引き続き設備等の改修が必要な状況ではありますが、電気、水道水、軽油使用量に大きく変化を及ぼすことはないと思われます。つまり、これからは管理運営の仕方がそのまま数字として表れてくるものと認識し、一つ一つ地道に改善を積重ねていきたいと思っています。



倉橋工場 石津工場長

6. 各部署48期の取組みと実績・評価

(4) 倉橋工場の取組み

2) 環境コミュニケーションなど

【取組み】

- 施設の改善では、腐食の著しい二次醗酵槽と壁面と通気用配管を改修しました。
- 在庫管理の強化では、先入れ先出しを徹底しました。
- 緊急事態（自然災害）への対応では、集中豪雨に備え定期的に側溝清掃を行いました。
- 1年間無事故無災害では、毎日の危険予知活動や作業時のヒヤリハットを抽出しました。

【実績・評価】

- 施設を改修したことで、自然光を取り入れることができ、工場内が明るくなりました。
- 生汚泥と種汚泥を重機で混合していた工程を見直し、混合機を導入したことで、重機への負担軽減と作業効率の改善に繋がりました。
- 在庫管理上、先入れ先出しできるように作業工程の見直しをしました。
- 火災予防策として消火器の更新および設置場所の見直しを実施しました。
- 危険予知活動やヒヤリハットの抽出に取組んだ結果、労災は0件でしたが、狭い場内でのUターン時に車両の物損事故が1件発生しました。

【今後】

- 引き続き老朽化した施設の改善はもちろんのこと、作業効率や安全性に資する改善を行うとともに、無駄な経費を削減できるよう、在庫管理の強化および、工程の見直しなどを継続的に取組んでいきます。
- 事故や怪我を誘発しないよう5Sを徹底するとともに、動線を明確にするための施設の改善にも取組んでいきます。



混合機



改修後の二次醗酵槽



肥料ラインナップ



Uターンスペースを確保

メッセージ

これまで、目の前の課題を一つ一つクリアすることで精一杯でしたが、49期以降は5年、10年先を見据えて課題に取り組むよう心掛けていきたいと思います。

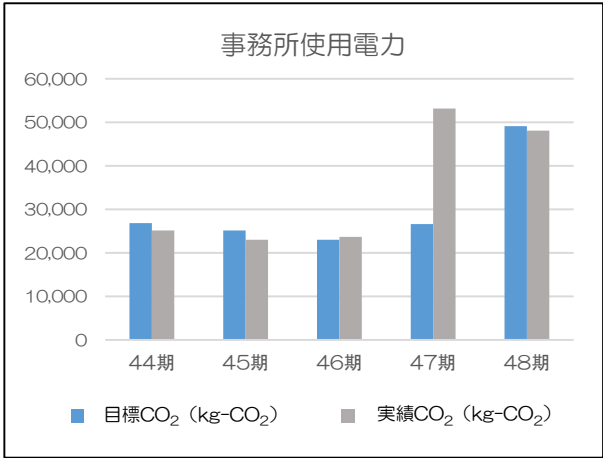
お客さまに必要とされる商品、サービスを提供できるように頑張ります。



倉橋工場 石津工場長

6. 各部署48期の取組みと実績・評価

(5) 事務所の取組み 1) CO₂の削減など



【取組み】
・毎月の電気使用量を集計しました。
・使用していない機器のコンセント抜くなど、こまめな節電に取り組めました。

【実績・評価】
・目標49,160kg-co₂に対して、48,118kg-co₂と目標達成出来ました。
・電力使用時間記録簿にて、エアコンと電灯の使用時間を記録して意識の向上に努めたことや、今年は夏場の暑い時期が去年に比べて短かった為、エアコンを付ける頻度が少なかった結果、目標を達成出来ました。

【今後】
・49期は、事務所をワンフロアに統合予定ですので、48期実績数値より10%削減の、43,307kg-co₂にチャレンジします。

CO ₂ 排出量 事務所電力	単位	目標	実績	CO ₂ 削減率	評価
	kg-CO ₂	49,160	48,118	2.1%削減	○
	kWh	66,612	65,201		

エコアクション21 第48期 事務所電力使用時間記録簿									
48期 12月 2期 12月 2期 12月 2期 12月 2期 12月 2期									
日	月	日	月	日	月	日	月	日	月
1	12	1	12	1	12	1	12	1	12
2	12	2	12	2	12	2	12	2	12
3	12	3	12	3	12	3	12	3	12
4	12	4	12	4	12	4	12	4	12
5	12	5	12	5	12	5	12	5	12
6	12	6	12	6	12	6	12	6	12
7	12	7	12	7	12	7	12	7	12
8	12	8	12	8	12	8	12	8	12
9	12	9	12	9	12	9	12	9	12
10	12	10	12	10	12	10	12	10	12
11	12	11	12	11	12	11	12	11	12
12	12	12	12	12	12	12	12	12	12
13	12	13	12	13	12	13	12	13	12
14	12	14	12	14	12	14	12	14	12
15	12	15	12	15	12	15	12	15	12
16	12	16	12	16	12	16	12	16	12
17	12	17	12	17	12	17	12	17	12
18	12	18	12	18	12	18	12	18	12
19	12	19	12	19	12	19	12	19	12
20	12	20	12	20	12	20	12	20	12
21	12	21	12	21	12	21	12	21	12
22	12	22	12	22	12	22	12	22	12
23	12	23	12	23	12	23	12	23	12
24	12	24	12	24	12	24	12	24	12
25	12	25	12	25	12	25	12	25	12
26	12	26	12	26	12	26	12	26	12
27	12	27	12	27	12	27	12	27	12
28	12	28	12	28	12	28	12	28	12
29	12	29	12	29	12	29	12	29	12
30	12	30	12	30	12	30	12	30	12
31	12	31	12	31	12	31	12	31	12



メッセージ

引き続き、使用していない電気はこまめに消すなど、事務所全体で節電を継続するとともに、49期は事務所をワンフロア化する予定ですので、さらなる電力使用量の削減に努めたいと思います。
長期目標として、LEDの導入も今後検討していきたいと思います。



総務部 舩本

6. 各部署48期の取組みと実績・評価

(5) 事務所の取組み 2) 環境コミュニケーションなど

- 【取組み】
- ・社員とのつながりでは、47期に引き続き朝礼で誕生日の社員をお祝いし、誕生日には一斉メール配信を行いました。
 - ・家族とのつながりでは、社員の家族を招いて『家族会』を企画、実施をしました。
 - ・積極的な情報公開では、ホームページのリニューアルをして内容の充実を図り、イベント・研修レポート等も掲載しました。
 - ・資格取得へのチャレンジでは、秘書検定2級・準1級の取得しました。
 - ・知識の向上では、社員のレベルアップを目指して接遇研修に全員で参加をしました。



- 【実績・評価】
- ・家族の皆さんへのアンケートでは「来年も参加したい」「楽しかった」などの意見が多く満足頂ける『家族会』になりました。
 - ・新たに導入した管理システムへの移行の為、各部署と連携を図りながらフォローすることで、必然とコミュニケーションが取れるようになりました。



- 【今後】
- ・『家族会』『誕生日のお祝い』を49期も継続し、新たに『永年勤続者の表彰』を行います。社内における総務部の役割を遂行し、社員・家族とのつながりを大切に、内部コミュニケーションの充実をさらに図っていきます。

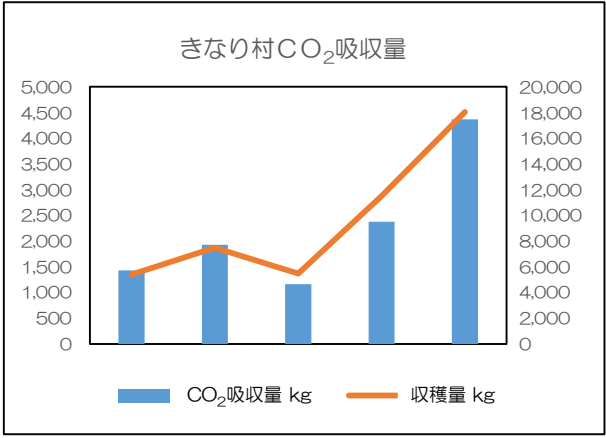
メッセージ

『家族会』『誕生日のお祝い』『永年勤続者の表彰』などを通して、社員同志が人とのつながりを大切にしつつ、働く意欲・やりがいを持てるように取組んでいきたいと思います。

又、社内の取組みをホームページなどを通して積極的に公開し、ステークホルダーの皆様に安心して頂けるよう頑張りたいと思います。



(6) きなり村農作物によるCO₂吸収量



- 【取組み】
- ・作付け計画を立てて栽培をしました。
- 【評価】
- ・目標2,378co₂吸収kgに対して4,367co₂吸収kgと大幅に増加しました。
 - 48期は、6次産業の推進と、鶏の飼料ために作付けを増やしたため収穫量も増え、CO₂吸収量も増加しました。
- 【今後】
- ・収穫量を増やしCO₂吸収量を増加させるだけでなく、きなり村と地域社会やカンサイ本社との繋がりを根本的に見直しを図っていきます。

	単位	目標	実績	削減率	評価
CO ₂ 吸収量	CO ₂ 吸収kg	2,378	4,367	84%増加	○
収穫量	kg	11,526	18,048		

*農作物による地球温暖化物質であるCO₂の吸収を目的としています。
計算方法として「LCA手法を用いた農作物栽培の環境影響評価実施マニュアル」を使用しています。

6. 各部署48期の取組みと実績・評価

(8) 事務局の取組み

1) 環境コミュニケーションなど

【取組み】

- ・全体教育を4月に実施しました。

【実績・評価】

- ・自社活動内容の理解度向上では、全体教育を年2回から年1回に改めて、内容を充実したものにしました。
- ・安全衛生協議会の設置については、新しく協議会を設置するのではなく、毎月の月次報告会議で報告し、随時見直しをするようにしました。
- ・48期の全体教育内容は、環境力道場の2期生メンバーが作成した、『2030年のカンサイの目標』というテーマで2グループの発表と、(株)ミライロ様によるユニバーサルマナー研修を行い、新たな気づきと人に対する接し方などを社員全員で学びました。終了後のアンケートでは、多くの社員から、「理解が深まった」「これからの生活や仕事に活かしたい」と前向きな意見が多くありました。
- ・夏の猛暑による熱中症対策のために、休憩所のエアコンを更新し、休息ができるスペースと簡易ベッドを設置しました。

【今後】

- ・社員一丸となって、カンサイの未来像を描き、全体教育や日々の業務の中で、コミュニケーションを図り全社員で共有していき、49期以降もその実現に向けて継続して様々な取り組みを実施していきます。



ユニバーサルマナー研修の様子



グループ発表の様子

2) 環境力道場

【環境力道場とは？】

- ・47期に引き続き、毎月1回、外部講師（認定NPO 法人環境文明21 共同代表、加藤三郎先生、藤村コノエ先生）を招いて、社員研修を実施しています。
- ・47期4月より第2期生のメンバーを選出し、午前中は地球温暖化問題から廃棄物処理業の現状と課題などを知識として学び、午後からは知識を知恵に変えるために、1期生で作った『2020年の目標』を達成する為の実現可能な具体策を作りあげました。
- ・また、同業他社様に施設見学をさせて頂き、施設や社員教育、接遇などを学ばせて頂きました。その一つとして、ヘルメットに名前と血液型シールを貼り付けて、万一労災が発生した時に迅速な対応ができるようにしました。

【今後】

- ・49期には3期生を選出し、より実務に活かせるよう、各部署内や部署間での問題を明確にして、一つ一つ問題解決策を全員で協議して、より良い関係性を作りあげていきます。そのツールとして、『カンサイ版フィロソフィー』なるものを作っていきます。



グループ討議の様子



施設見学の様子

6. 各部署48期の取組みと実績・評価

環境負荷の全体像



※きなり村のCO₂排出量は、電力・LPG・灯油などからの排出量です。
取組みの作物によるCO₂吸収量は、わずかであることから差し引いてはいません。

7. 49期の環境活動計画

	目標	活動内容	実施時期	該当部門
1. 環境	(1) 回転炉床・ロータリーキルンの重油使用量の削減	管理体制の強化、随時改善するプラント運転管理者の技術の向上	通年	ETF
	(2) 業務車両のガソリン・軽油使用量の削減	ドライブレコーダーの運用および管理体制の強化	通年	業務部
	(3) 営業車両のガソリン使用量の削減	エコ運転の教育・徹底	通年	営業部
	(4) 重機の軽油使用量の削減	点検マニュアルの改善および管理体制の強化	通年	倉橋工場
	(5) 事務所電力使用量の削減	フロアの統合と、こまめな節電	通年	環境計量室
	(6) 作物によるCO ₂ 吸収量の増加	環境に適した作物栽培の検討・実行	通年	※きなり村
	(7) 場内全域の臭気対策	有機汚泥の受入れ設備の改良	通年	ETF
	(8) 施設の改善	保管場所の整備・搬入ルートの改善	通年	ETF・倉橋工場
	(9) 在庫管理の強化	処理スケジュール作成による管理と実施	通年	ETF・倉橋工場
	(10) 緊急事態（自然災害）への対応	自然災害へのリスク調査（中期計画）	通年	ETF・倉橋工場
	(11) 各環境測定の実施	ダイオキシン測定ほか	通年	ETF
	(12) 燃え殻・汚泥・肥料・排水維持管理	毎月サンプリング・分析および関係部署への伝達	通年	環境計量室
	(13) 環境活動レポートの作成	11月初旬に49期版を発行	9～11月	EA21推進メンバー
2. コミュニケーション	(1) ステークホルダーからの要望への対応	お客様の要望・意見・提案を回覧と共有	通年	全部署
	(2) 情報の共有化	新システム導入によるスケジュール管理	通年	営業部
	(3) 社員とのつながり	毎月誕生月の人をお祝する 永年勤続者の表彰	通年	総務部
	(4) 家族とのつながり	社内報の内容を充実させる	年4回	営業部
		家族見学会の企画・実施	6月	総務部
	(5) ステークホルダーとのつながりの拡充	地域清掃活動への参加	通年	営業部
	(6) 自社活動の広報	イベントの企画		営業部
	(7) 見学者の受け入れ拡充	部署間での事前協議	通年	営業部
3. 教育	(8) 積極的な情報公開	ホームページの充実	通年	総務部
	(1) 自社活動内容の理解度向上	年1回全体教育の実施	5月	EA21事務局
	(2) 資格取得へのチャレンジ	リストアップと計画取得	通年	全部署
4. 安全衛生	(3) 知識の向上	随時各講習会、講義の参加	通年	全部署
	(1) 1年間無事故無災害	指差し確認の徹底と啓発	通年	ETF・倉橋工場・業務部
	(2) 交通事故の防止	事故事例の再検証	通年	業務部
	(3) 飲酒運転禁止	アルコールチェッカーの運用（基準値0mg）	通年	業務部
	(4) 5S活動の推進（整理・整頓・清掃・清潔・躰）	毎週金曜日の清掃活動	通年	全部署
	(5) 安全衛生協議	月次報告会内にて設置	月/1回	EA21事務局

※きなり村につきましては、運営を根本的に見直すこととしたため、49期から一旦対象施設から外します。

8. 第三者意見

今、時代はあらゆる意味で大きく、かつ、急速に変化しています。

異常気象の頻発や生物多様性の喪失、さらには原発事故に伴う環境汚染などの環境の悪化のみならず、少子高齢化に伴う生産人口の減少、地方財政の悪化など、社会経済面においても、変化の規模とスピードはめまぐるしいものがあります。

このような激震は産業廃棄物業界においても例外ではなく、広島県下を中心に発展を続けている株式会社カンサイにおいても、日々その変化を受け止め、真摯に向き合い、事業活動を推進していることと思います。ここでは、その具体的な姿であるエコアクションの活動と環境力道場の二点に絞ってコメントします。

一昨年の46期から推進員を中心として進められてきたエコアクション並びに環境活動レポートの作成も定着しつつあり、社員の皆さんの環境への取組に対する真剣さがレポートからも見て取れます。特に今期からは、これまで原単位で記載していたデータの多くをCO2排出量で記載するようにした点は、全ての事業活動において気候変動問題に取り組む姿勢の表れであり、世界の動向やニーズに見合ったものとして評価できます。全体としてはCO2の大幅削減ができてきているものの、部署によっては目標を達成できていない所もあります。しかし、その場合でも目標達成できなかった理由を明確にした上で今後の目標を掲げており、今後の実行性は期待できます。また、全体の構成として、部署ごとに取組み、実績・評価、今後の取組みをまとめた点は、より読み手の利便性を意識しており工夫の跡が見られます。

しかし、中期目標にあるように今後毎年1%ずつCO2を削減していくことは、施設・設備の変更を行うにしてもかなり困難なことです。また、CO2削減への取組みだけでなく、「環境創造総合企業」を目指すには、従来の廃棄物の適切処理を基本としながらも、その先を見通した事業活動の拡大と深化も必要であり、それに向けたより具体的な取組みも今後は必要となります。

一方、環境力道場は、激動する時代の変化を的確にとらえ、その変化に対応しながら、カンサイをこれまで以上に強化・発展させるためには人材育成が重要との経営者の判断から始められたものです。そして、今期は、気候変動問題や産業廃棄物業界の動向などについての知識の習得と併せて、一期生が作成した「カンサイの2030年、2020年の目標」を達成する為の具体的な方策、すなわち、CO2の削減だけでなく、「環境創造総合企業」へと発展していく為の具体的な方策が議論されました。

これまでも環境力道場での議論をエコアクションの取組みにも活かしていると同っていますが、今後はこれまで以上に、この道場で培った力をエコアクション並びに実際の事業活動に活かしていくことが重要です。

持続可能な環境創造総合企業を目指して、現状の課題を解決しつつ、新たな取組みも加え、着実かつ戦略的に、一步一步積み上げていく力と専門性を鍛え磨き、新社長のもと、挑戦し続けることを期待しています。

2015年10月
NPO法人環境文明21
共同代表 加藤三郎、藤村コノエ

9. 環境関連法規・訴訟等の有無

(1) 当社に適用となる主な環境関連法規制等

法律・条例等	主な内容
環境基本法	・事業活動に伴い生じる公害を防止する ・事業活動に係る製品が廃棄物となった場合の適正処理の措置 ・事業活動に係る製品が使用、廃棄されることによる環境負荷の低減と再生資源の利用 ・国または地方公共団体の環境保全に関する施策への協力
廃棄物の処理及び清掃に関する法律	・廃棄物の排出を抑制し、適正な分別、保管、収集、運搬、再生、処分等の処理を行う ・生活環境を清潔にすることにより、生活環境の保全及び公衆衛生の向上を図る ・マニフェストの交付、管理の遵守
水質汚濁防止法及び広島県公害防止条例	・工場及び事業場から排出される水の排出及び浸透を規制し、生活排水対策を実施する ・水質の汚濁の防止を図り、国民の健康を保護するとともに生活環境を保全する ・健康被害が生じた場合の責任を明確にし、被害者の保護を図る
騒音規制法	騒音についての必要な規制を行なうとともに、許容限度を定めることにより、生活環境を保全し、国民の健康の保護に資する
振動規制法	振動について必要な規制を行なうとともに、道路交通振動に係る要請の措置を定めること等により、生活環境を保全し、国民の健康の保護に資する
悪臭防止法	悪臭について必要な規制を行い、その他悪臭防止対策を推進することにより、生活環境を保全し、国民の健康の保護に資する
大気汚染防止法	・ばい煙、揮発性有機化合物及び粉じんの排出等を規制し、有害大気汚染物質対策の実施を推進する ・自動車排出ガスに係る許容限度を定めること等により国民の健康を保護するとともに生活環境を保全する ・健康被害が生じた場合の損害賠償の責任について定めることにより、被害者の保護を図る
ダイオキシン類対策特別措置法	ダイオキシン類による環境の汚染防止及びその除去等をするため基準を定め、必要な規制、汚染土壌に係る措置等を定め、国民の健康の保護を図る
特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律	事業者による化学物質の自主的な管理の改善を促進し、環境の保全上の支障を未然に防止する
消防法	国民の生命、身体及び財産を火災から保護するほか、災害等による傷病者の搬送を適切に行うことで秩序を保持し、社会公共の福祉の増進に資する
肥料取締法	肥料の品質を保全し、その公正な取引と安全な施用を確保するため、規格及び施用基準の公定、登録、検査等を行う。農業生産力の維持増進に寄与する
建設業法	建設業を営む者の資質の向上、建設工事の請負契約の適正化等を図ることによって、建設工事の適正な施工を確保し、発注者を保護するとともに、建設業の健全な発達を促進する
建設リサイクル法	・特定の建設資材について、その分別解体等及び再資源化等を促進する ・登録制度を実施し再生資源の十分な利用及び廃棄物の減量等を図る
道路運送車両法	所有権についての公証等を行い、並びに安全性の確保及び公害の防止その他の環境の保全並びに整備についての技術の向上を図る
毒物及び劇物取締法	毒物及び劇物について、保健衛生上の見地から必要な取締を行う
計量法	計量の基準を定め、適正な計量の実施を確保
高圧ガス保安法	高圧ガスの製造、貯蔵、販売、移動その他の取扱い及び消費並びに容器の製造及び取扱いを規制する
放射線障害防止法	放射性同位元素の使用、販売、賃貸、廃棄その他の取扱い、発生装置の使用及び放射性汚染物の廃棄その他の取扱いを規制し、これらによる放射線障害を防止する
労働安全衛生法	・労働災害の防止のための危害防止基準の確立 ・責任体制の明確化及び自主的活動の促進 ・職場における労働者の安全と健康を確保し、快適な職場環境の形成を促進する
古物営業法	盗品の売買の防止、速やかな発見等を図るため、必要な規制を行い、犯罪の防止を図り、その被害の迅速な回復をはかる

(2) 違反、訴訟等

当社における環境関連法規への違反はありません。また、関係当局からの指摘は無く、訴訟もありませんでした。

10. 許認可情報等

産業廃棄物収集運搬業許可一覧		
許可行政	許可番号	優良事業者評価適合
広島県	第03409004558号	・
岡山県	第03307004558号	
島根県	第3200004558号	
山口県	第03500004558号	
鳥取県	第03104004558号	・
愛媛県	第3805004558号	
高知県	第03900004558号	・
徳島県	第3600004558号	
香川県	第03709004558号	
兵庫県	第02803004558号	・
特別管理産業廃棄物収集運搬業許可一覧		
許可行政	許可番号	優良事業者評価適合
広島県	第03459004558号	・
岡山県	第03357004558号	
島根県	第3250004558号	
山口県	第03550004558号	
鳥取県	第03154004558号	
愛媛県	第3855004558号	
高知県	第03950004558号	・
徳島県	第3650004558号	
香川県	第03759004558号	
兵庫県	第02853004558号	・

産業廃棄物処分業許可一覧		
許可行政	許可番号	優良事業者評価適合
広島市	第0720004558号	・
呉市	第07422004558号	
特別管理産業廃棄物処分業許可一覧		
許可行政	許可番号	優良事業者評価適合
広島市	第07370004558号	・

施設	処理方法	処理能力
回転炉床式焼却炉	焼却	6.6t/日
ロータリーキルン焼却炉	焼却	4.8t/日
二軸剪断式破碎施設	破碎	木くず6.0t/日・・・他
縦型圧縮梱包器	圧縮	繊維くず4.49t/日・・・他
電気ヒーター熱分解方式	溶融	50m ³ /時
移動式脱水車	移動脱水	50m ³ /日
固化施設	固化	50m ³ /日
天日乾燥施設	天日乾燥	50m ³ /日
連続中和装置	中和	48m ³ /日
安定化処理施設	安定化	4t/日
発酵施設	発酵	70t/日

10. 許認可情報等

区分	産業廃棄物収集運搬	産業廃棄物処分業
燃え殻	○	
汚泥	○	○
廃油	○	○
廃酸	○	○
廃アルカリ	○	○
廃プラスチック類	○	○
紙くず	○	○
木くず	○	○
繊維くず	○	○
動植物性残渣	○	○
動物系固形不要物	○	○
ゴムくず	○	○
金属くず	○	○
ガラス・陶磁器くず	○	○
鉱さい	○	
がれき類	○	
動物のふん尿	○	
動物の死体	○	
ばいじん	○	
産廃処理物	○	
石綿含有産廃を含む	○	

区分	特別管理産業廃棄物収集運搬業	特別管理産業廃棄物処分業
廃油	○	○
廃酸	○	○
廃アルカリ	○	○
感染性産業廃棄物	○	○
特定有害産業廃棄物		
燃え殻	○	○
汚泥	○	○
廃油	○	○
廃酸	○	○
廃アルカリ	○	○
鉱さい	○	○
ばいじん	○	○

11. 環境管理責任者による全体評価と見直しの結果

全体の評価

数年前、株式会社カンサイに「何か足りないな」と考えている時、正しい「情報伝達」「情報共有」が出来ていないことに気が付きました。そんな時「ご縁」を頂き、2013年に環境力道場を企画・開催することができました。年々コミュニケーションも深まり、充実してきたのではないかと思います。社内報の配布、家族会の開催もされ、より絆が深まってきたことを実感しています。

また業務車両の更新と整備、本社工場・倉橋工場共に在庫管理・環境整備が習慣化し、年々良くなってきました。

業歴も50期目前になりました。多様化するお客様のニーズ、社会の変化を反映した経営を行っていかねばなりません。そのためにはお客様や社会との「対話」が必要不可欠であると考えています。49期は、より膝を突き合わせて「対話」を繰り返し、互いに理解し合い、互いに助け合う精神を養って欲しいと思います。

我々の仕事を通じてお客様や社会に価値を創造し、価値を共有できる会社「環境創造総合企業」にしていきたいと思います。

環境管理責任者
川本 義二

12. 編集後記

この度、48期環境活動レポートを編集するにあたり正直でありたいと心掛けて編集をさせて頂きました。

各部署が、それぞれの役割の中でいろいろな取り組みをしてきました。掲げた目標が達成できたことや、チャレンジしたけれども失敗に終わったこと、はたまたチャレンジするに至らなかったことなど多くのことがありました。

しかし、それらを全て併せ持ったものが、現状のカンサイだと思います。どんな仕事をするにしても、まずは社会に仲間に正直でなければ良い仕事はできません。このレポートが私たちの、未来へと進む道標と、過去を見つめ直す為のツールの一つになればと思い編集をしました。

これらを正直に、ステークホルダーの皆様にご報告して「カンサイってどんな会社なのかな？」と少しでも興味を持って頂き、新しいご縁がありますようにと願っています。

エコアクション21推進責任者
北川 貴伸

株式会社カンサイは、環境創造総合企業を目指しています



株式会社 カンサイ

住 所 〒731-5102

広島県広島市佐伯区五日市町大字石内460番地

連絡先 TEL：(082) 941-1641

FAX：(082) 941-1715

E-mail：kansai@ekansai.co.jp

発行責任者 エコアクション21推進委員

(担当) 北川・舂本